



後藤淳学園長・総長、後藤泰之理事長を囲んで、受賞者の皆さん

後藤鉀二賞を五氏に授与

名古屋電気学園の後藤鉀二先生奨学記念会（会長・後藤泰之理事長）は一月十二日、平成二十八年度後藤鉀二賞を故神戸政治・学園前理事、石垣尚男・大学教授、今枝一郎・高校教諭、工藤公康・福岡ソフトバンクホークス監督、卓球の吉村真晴選手（名古屋ダイハツ）の五氏に授与し、学園の発展に寄与した功績を称えました。（2面に受賞者の横顔と謝辞）



愛知工業大学
愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

| | |
|----------|---|
| 実験棟を建設 | 3 |
| 芝浦工大と協定 | 4 |
| 愛知環境賞受賞 | 4 |
| 愛名会企業展 | 4 |
| 各設置校で入試 | 5 |
| 学園表彰 | 6 |
| 高校生が熊本応援 | 7 |
| 知事にメダル報告 | 8 |

発行所

名古屋電気学園

〒470-0392

豊田市八草町八千草1247

TEL (0565) 48-8177

故神戸政治氏 学園前理事

石垣尚男氏 大学教授、スポーツと視覚の研究の第一人者

今枝一郎氏 高校教諭、高校卓球部監督

工藤公康氏 福岡ソフトバンクホークス監督

吉村真晴氏 リオオリンピック卓球男子団体銀メダリスト

後藤鉀二先生の遺影が飾られた若水キャンパス南校舎多目的ホールに後藤淳学園長・総長、後藤泰之理事長ら記念会・学園の役員が出席し、授賞式は後藤鉀二先生が亡くなった午前十一時三十分全員で黙とうを捧げて始まりました。後藤理事長が五氏それぞれに表彰状、賞牌を手渡しました。後藤理事長は挨拶で後藤鉀二先生の功績と賞の由来を説明した後、五氏それぞれの受賞理由を紹介し、これまでの尽力に対する感謝や今後の活躍への期待の言葉を述べました。昨年七月に逝去した故神戸氏は学園の運営に監事、理事としての確かな助言をされました。石垣氏は「スポーツビジョン」「動体視力」の研究を通じて大学の知名度向上に貢献しました。今枝氏は高校卓球部監督として昨年夏のインターハイで部を完全優勝に導きました。工藤氏は名電高校

工藤監督は母校で“授業”も



福岡ソフトバンクホークスの工藤公康監督は後藤鉀二賞の授賞式後、名電高校二階サテライト教室に場所を移して母校の後輩たちと交流の時間を持ちました。

普通科スポーツコースで学ぶ一〜三年生約百人を前に、一時間近くに及ぶ「授業」をしました。写真。「現状と理想のギャップを埋めるにはどうすればいいかを、どれだけ時間をかけて考えられるか。一流になれるかなれないかの違いは、たかだかそれぐらいです。自分の限界を考えるのではなく、この先にある未来に絶対的に制限をつけないという考え方で」と、アスリートとして長く生きていくための心構えを説きました。

後藤理事長が年頭挨拶

平成二十九年の仕事始めにあたり、後藤泰之理事長が一月六日に若水キャンパス、七日に八草キャンパスで、それぞれ教職員に年頭の挨拶をしました。専門学校でも六日に稲垣慎二校長が年頭の挨拶をしました。

後藤理事長は若水キャンパスの挨拶で、高校・中学が一体になって教育を進めるための方向性を示しました。八草キャンパスの挨拶では、グローバルな人材育成への協力などを求めました。要旨3面。

後藤鉦二賞

5氏の横顔と謝辞

平成二年十一月から十四年三月まで学園監事、十四年三月から二十八年七月まで学園理事として学園運営に的確な助言。大学後援会長として保護者と大学の連携に尽力し、学園の後援組織である愛名会やクラブ活動後援会に対しても会の設立当初からの多大な協力で学園の発展に寄与しました。授賞式には妻の一子さんとご子息の剛さんが出席し「こんな立派な賞をいただけるのは主人は夢にも考えていなかったはずですが、今も皆様に対する感謝の気持ちを伝えたいと思っています。学園が、これからもますます盛んになり、また立派な教育をされ、世界に羽ばたく方たちを育ててくださいますよう、よろしくお願いたします」と謝辞を述べました。



故神戸政治氏

大学で四十七年の長きにわたり教育・研究の発展に貢献。その間、入試副部長、入試部長の要職を務めるとともに、研究分野の一つである「スポーツビジョン」「動体視力」の研究を通じて、プロ・アマスポーツチームのサポートや、多くのテレビ出演を通じて、大学の知名度向上に功績を残しました。「総長先生、理事長先生の優しいお人柄を感じながら、その下で働かせていただきました。愛知工業大学の名前をなんとか広めていきたいと考え、そのためにはやはりメディアの影響力が大きいと、機会があるごとに大学の名前を出るようにしてやってきました。今後もう少しでも学園、愛工大のためにやる働き、頑張ってくださいます」と謝辞を述べました。



石垣尚男氏

平成十四年から高校教諭・卓球部コーチ、十七年から監督。全国選抜大会二十六、二十七年連続優勝、昨夏のインターハイで学校対抗の部二十一年ぶり優勝、さらにダブルス、シングルも優勝、シングルスはベスト4を名電高生が独占する完全優勝で、学園のスポーツ振興に貢献しました。「私自身、この学園で中学・高校・大学とお世話になり、卓球選手として良い結果を出すことができました。その恩返しができればと教員になり、今日まで頑張ってきました。素晴らしい環境と生徒たち、学園の絶大な支援のおかげで過去最高の成績を収めることができました。これにござらず、これからも学園のために一層精進します」と謝辞を述べました。



今枝一郎氏

高校三年の夏の甲子園でエースとしてベスト4進出。昭和五十七年卒業後、西武、巨人などプロ野球選手時代に十四度の優勝と十一度の日本一を経験、二十九年間で二四勝を記録し、多くの表彰を受けました。平成二十七年、福岡ソフトバンクホークス監督に就任、初年でチームを日本一に導きました。昨年一月に野球殿堂入りを果たすなど卒業生としてスポーツ振興に貢献しました。「私のいまがあるのも、この学園が基礎を築いてくれたからこそ。名電高校が多くのスポーツ選手を輩出していることを誇りに思い、その誇りを後輩たちと心に刻んで私は野球道を邁進したい。今後も素晴らしい生徒を育てていってください」と謝辞を述べました。



工藤公康氏

昨年三月の卒業まで大学卓球部に所属し、全日本大学インカレで二度団体優勝したほか、日本代表として出場した世界選手権では混合ダブルスと男子団体で銀メダルを獲得しました。昨年八月に行われたリオ五輪に日本チームの一員として出場、史上初の銀メダル獲得という快挙を達成し、卒業生としてスポーツの振興に貢献しました。「大学の四年間、選手として素晴らしい環境を与えてもらい、そして学園生活で人間として成長させてもらいました。選手として非常に充実した生活を送っています。さらに高みを目指してやっけていく自信があります。東京五輪で金をとる瞬間を皆さんに届けられるように頑張ってくださいます」と謝辞を述べました。



吉村真晴氏



年頭挨拶する後藤泰之理事長

後藤理事長の年頭挨拶要旨

■若水キャンパス 昨年は瑞若スポーツセンターのグラウンド・体育館整備、春日井総合運動場の野球場改修と、教育の環境が整ってまいりました。こうした環境整備を

進めるには経営の安定が大前提としてあり、少子化という難局をいかに乗り越えていくか、真剣に考えなければなりません。第一に、子供たちが「来たい」と思う学校である必要があります。よそにはない名電独自の取り組みに魅力を感じれば、皆が進学してくるでしょう。名電高校や附属中学校は、勉強をしたい子にはそのための道が用意されています。「クラブ活動に打ち込みたい」「ロボットを学びたい」「ものづくりに取り組みたい」という要望にこたえられるコースも用意されています。この学校の魅力は多様性にあります。子どもたちの将来の目的達成をいかにサポートしてやれるか。目的が見つからず迷っている子がいたら、背中を押してあげられるか。それができる学校であってほしいと思います。今は北校舎、南校舎と分かれています。そこが一緒になり、一人の生徒を学校全体で育てていかなければなりません。平成30年には中学校の名称を変更して、一本化をしていきます。今年から来年にかけてが準備期間と考えています。平成30年からその道をすぐに始められるよう、しっかり準備をしてほしいと思います。

■八草キャンパス 教育の充実、研究の活性化、環境整備、そして地域貢献。そういったものをしっかりやっていきたいと、毎年同じようなことを言っています。どれも終わりのない課題です。いろいろ改善していくと、また次の問題が出てきて、学生も社会の情勢も変わっていくのです。このところ、基礎教育科目と専門科目の連携がまとまってまいりました。この正月に思ったのは、TOEICに対して、もっと全学的に取り組めないかということです。採用時にTOEICのスコアでしぼりをかける企業があると聞きました。何点以上なければ就職活動のスタートラインにも立てないという時代が来ています。われわれは専門をしっかり教えるだけでなく、グローバルな人材育成を視野に入れながら教育に取り組んでいかなければならないと思います。環境の整備では新食堂棟が昨年完成し、ことしは9月に応用化学科バイオ環境化学専攻の実験棟が完成予定になっています。この後も自由ヶ丘キャンパスの整備などが検討されています。やはり経営基盤が安定していなければいろいろな取り組みはできず、学生確保のための迅速な意思決定と実行が求められています。本学は工業大学であり「ものづくりを通しての人づくり」の精神を時代に合わせて充実発展させてきました。その伝統をまじめにこつこつ積み重ねてきたことが、社会の中での本学の評価に結びついています。そういったところを今後も大事にしていきたいと思っていますので、皆様それぞれのお立場、部署でご尽力をお願いします。

昨年十二月十九日、建設予定地に後藤泰之理事長ら学園、大学、施工関係者の五十人が出席して地鎮祭が営まれました。後藤理事長の穿初鋤入れ、岩川千行・清水建設名古屋支店専務執行役員支店長の穿初鋤入れなどの神事で安全を祈願した後、後藤理事長が「三号館・三号館別館をうまく橋渡しする念願の新実験棟が、教育・研究の情報発信をしていただければ」と挨拶を述べました。

実験棟は鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）四階建て、延べ床面積一五七六・二二平方メートル。一階が共通機器室・研究室、二階がバイオ実験のフロアとなっており、三階と四階に研究室・卒研室・ゼミ室を設けます。DNA組換えや細胞培養室などを備えて最先端の研究が可能になるほか、プロジェクト研究室、多目的室、測定室も設置して研究の幅を広げます。また、エレベーターを設置し、三、四階部分を三号館・三号館別館とそれぞれ渡り廊下で結ぶことで、全体のバリアフリー化を進めます。



完成後の外観イメージ

学園は、八草キャンパスの三号館別館東側に応用化学科バイオ環境化学専攻の実験棟を建設しています。九月末に完成し、利用が始まります。

バイオ環境化学実験棟を建設

人事異動

■平成29年1月1日付<所属変更(職種変更を含む・カッコ内は前職)>

大学事務局学務部経営学部事務室主査(高校教諭) 有田 哲治

若水事務部係長(大学事務局学務部経営学部事務室係長) 高木 美也子

<新規委嘱>

大学工学部応用化学科特任研究員 森田 美和

■平成29年2月1日付<新規採用>

事務局管理部管財課参事 鈴木 実

芝浦工業大学と連携協定 人材育成で協働

愛知工業大学は昨年十二月八日、芝浦工業大学（東京都港区）と連携協定を締結しました。この連携を通して、グローバル社会で活躍できる人材の育成に協働で取り組んでいきます。

芝浦工業大学は二〇一四年九月に文部科学省のスーパードigital大学創成支援に採択されており、国際化を牽引するにあたり、エンジニアを育成するという教育・研究理念が共通する

本学との連携協定に至ります。

した。協定では、両大学の建学の精神のもとに相互の特色を生かした交流を図るとして、「教育・研究に関すること」「教職員・学生の交流に関すること」などを連携・協力事項に挙げています。

締結式は芝浦工業大学豊洲校舎で行われ、同大学から村上雅人学長、本学から後藤泰之学長の代理として山田英介副学長が出席。協定締結を終え、山田副学長は「グローバル化への取り組みを



村上雅人学長と握手を交わす山田英介副学長（右）

組みを基点として、教材開発、単位互換、FDなどの教育に関する取り組み、共同研究、研究発表会など研究に関する取り組みにも発展できれば」と期待を述べました。

研究プロジェクトの成果に愛知環境賞

再生可能エネルギーによる発電システムの利用を考慮したグリーングリッドシステムの構築

愛知工業大学の研究プロジェクト「新エネルギー技術開拓拠点」（雪田和人プロジェクトリーダー）が開発・研究を進めるグリーングリッドシステムの基礎技術が、再生エネルギーの利用拡大と省エネに大きく貢献するものとして愛知県主催の愛知環境賞銅賞を受賞しました。

構築したグリーングリッドシステムは、太陽光・風力などの再生可能エネルギーによる発電システムと鉛蓄電池を用いた給電システムに、直流交流給配電技術などを組み合わせることで、電力品質を損なうことなく既存の電力系統と連携でき、直流電力の活用による省エネルギー効果も生み出します。材料技術の面からも、有機ELを用いた照明技術、窒化ガリウムを用いた電力半導体素子による変換装置の開発を行い、システム面だけでなく機器装置単体の省エネルギー化を図っています。



水野会長、大村秀章知事の祝福を受ける後藤泰之学長

表彰式は二月十六日、名古屋市内のホテルで開催され、環境パートナーシップ・CLUB（EPOC）の水野明久会長（中部電力代表取締役会長）から表彰状を手渡された後藤泰之学長が「本学の教育研究、社会貢献に大きな力を得た」とお礼の言葉を述べました。

愛名会企業展に最多の 578 社

就職活動が本格スタート



過去最多の出展企業を迎えた愛名会企業展

就活スケジュールは昨年と同じで、六月一日が選考活動解禁。準備期間三カ月の短期決戦となります。今年も学生優位の売り手市場が続いています。キャリアアセンダーでは「準備をきちんとしなければ内定には至らない。来春、希望に満ちた新しい一歩を踏み出せるようにしっかりと取り組もう」と呼び掛けています。

学園の後援組織「愛名会」の会員企業が出展する学内企業展が三月一、二、四日の延べ三日にわたって八草キャンパス鉦徳館（体育館）で開かれ、来春卒業予定の学生らの就職活動が本格的に始まりました。

また。開会式で津田紀生キャリアセンター長らが挨拶し、入場時間になると、黒いスーツ姿の学生たちが次々と目当ての企業ブースを埋めていきました。愛名会は平成九年に学園創立八十五周年記念事業の一環として発足し、この企業展を大学と毎年共催しています。前年度は就職した学生一六四人のうち四二八人が愛名会企業二三四社に入社を決めるなど、本学の高い就職率を支えています。

愛知工業大学 愛工大名電高校 愛工大附属中学校

設置校で入試本番迎える

大学

入試の前日程はA方式(記述式)が一月二十七、二十八日、M方式(マークセンス式)が同二十九日の三日連続で行われました。



問題配布を受ける大学の受験生



自由ヶ丘キャンパスの試験会場

試験は八草キャンパス、自由ヶ丘キャンパスのほか、一宮、豊橋、岐阜、津、四日市、浜松、静岡、富山、金沢、松本、岡山、福岡の十二地方会場で行われました。八草キャンパスでは早朝から受験生が訪れ、会場となった十号館、一号館の入り口で割り当てられた教室を確認して入室。ピンと張りつめた空気の中で試験問題に取り組みました。

三学部七学科十四専攻の募集人員六七四人に対し、志願者数は六二三六人で

高校

た。三日間の試験中トラブルもなく、平穩に日程を終了しました。

県内私立高校有数のマンモス入試となつている名電高校の一般入試は二月八日に行われました。志願者数は普通科が三二六人の募集に対し三七九六人で倍率は一・九倍でした。

受験環境の均等化をはかるため、今年から大学の講義室も試験会場に充てられました。試験は若水キャンパスで午前八時半から、自由ヶ丘キャンパス(四六六人受験)と八草キャンパス(二五二人受験)では二十分後の八時五十分から行われました。

中学

附属中学の入学試験は一月二十一日に奨学生A入試(四教科)と今年から設けた奨学生B入試(三教科と面接)、二十二日に第一回一般入試(四教科)の日程で行われました。合わせて一〇五人の定員に対し志願者は七一一人で、倍率は六・八倍でした。附属中の入試は例年、愛知県内の私立中学校のトップを切つて行われています。二十一日朝は気温三度前後と平年並みの冷え込みの中、受験する児童たちが保護者とともに訪れ、出迎への進学塾関係者から励ましの声を掛けられていました。児童たちは各教室で担当教諭の説明を受けた後、午前八時三十分から始まった筆記試験に真剣な表情で取り組みました。



説明を聞く附属中学の受験生

高校吹奏楽部第五十二回定期演奏会



庄巻の演奏を繰り広げた第52回定期演奏会

学園が主催する名電高校吹奏楽部の第五十二回定期演奏会は二月四日、名古屋国際会議場センチュリーホールで昼夜二部にわたって開かれました。

プログラムは、伊藤宏樹教諭指揮による四部構成。第一部で本年度全日本吹奏楽コンクールの課題曲「マーチ・スカイブルー・ドリーム」と自由曲に選んだ「モントニャールの詩」を演奏したのに続いて、映画音楽の第一人者であるジョン・ウィリアムズの名曲などを次々と披露しました。

全日本吹奏楽コンクール高校の部に全国最多三十九回出場を果たしている同部は、本年度も「西日本バンドフェスティバルin広

島」に出演するなど幅広く活躍しています。昼夜共に客席を埋めた吹奏楽ファンは華麗な演奏に聴き入り、同部の新レパートリー曲のタイトルそのままの「HAPPY」な笑顔で会場を後にしました。

後藤杯卓球に

全国から一三三四人

第四十六回後藤杯卓球選手権大会《名古屋オープン》が一月二十一、二十二日、一宮市総合体育館で開催されました。カデット、ホープス、カブの各部男女に全国から合わせて千三百三十四人の小中学生たちが参加しました。開会式では、愛知県卓球協会会長の後藤泰之理事長が、ピンポン外交に尽力した元日本卓球協会会長、元学園理事長の故後藤鉦二先生の業績にふれ「一つでも多く技を積み、上を目指して頑張ってください」と挨拶しました。愛知工業大学附属中学校の横谷晟選手が全力プレーを宣誓し、子供たちは広い会場をいっぱいにして二日間の熱戦を繰り広げました。

大学女子卓球部・高校吹奏楽部・中学卓球部を学園表彰



全国の頂点に立った高校吹奏楽部員・中学卓球部選手たち

高校吹奏楽部
全日本マーチングコンテスト金賞

中学卓球部
全日本選手権・ダブルス優勝

全日本マーチングコンテストで金賞に輝いた高校吹奏楽部と、全日本選手権でダブルス優勝を勝ち取った中学卓球部に対する学園表彰が昨年十二月二十一日、若水キャンパスで行われました。

高校吹奏楽部は昨年十一月二十日、大阪市の大城ホールで開かれた第二十九回全日本マーチングコンテストに出場し、五年ぶり七回目とな

る金賞に輝きました。演奏曲はフィリップ・スパークの「ドラゴンの年」で、十字形から次々と隊形を組み替えてゆく迫力のパフォーマンスで会場を沸かせました。

中学卓球部は昨年十一月十九日二十一日に山梨県の小瀬スポーツ公園体育館で開かれた全日本選手権（カデットの部）に出場し、男子ダブルスで横谷晟・篠塚大登選手のペアが優勝しました。さらに同種目で、部員たちがベスト4を独占する活躍を見せました。

「そうした気持ちからこれからも大事にし

てくください」と呼び掛けました。また、中学卓球部のベスト4独占は高校卓球部のインターハイの活躍を思い起こす快挙として「東京オリンピックにつながる活躍を」と激励しました。

これにちなみ、高校吹奏楽部の伊藤宏樹顧問が「心と技術が伴うクラブを心がけ、これからも精進していきます」と誓い、中学卓球部の真田浩二監督が「東京五輪、その先の四年後とつながっていくよう、目的を持って取り組みます」と決意を語りました。

部員、選手からも報告があり、マーチングでドラムメジャーを担当した高校吹奏楽部の神野稜大君と、中学卓球部の横谷・篠塚両選手が、支えてくれた人々へのお礼とともに、これからの活躍に向けた言葉を述べました。表彰されたのは次の皆さんです。

表彰式は南校舎地下一階の多目的ホールで行われ、後藤泰之理事長から指導者と部員代表や選手に表彰状などが手渡されたほか、クラブ活動後援会の辻本昌孝副会長からも激励が贈られました。

後藤理事長は挨拶の中で、高校吹奏楽部員たちの礼儀正しい行いがマーチング練習先の公共施設の関係者を感動させたという話を紹介し

【高校吹奏楽部】
伊藤宏樹顧問、小林知宏顧問、鈴木裕子顧問、梶山宇一顧問、部員八十一名

【中学卓球部】
真田浩二監督、今枝一郎顧問、増田朗顧問、董崎岷・外部コーチ（感謝状）、横谷晟選手、篠塚大登選手

大学女子卓球部 全日本大学選手権・ダブルス優勝

昨年10月27～30日に長野市真島総合スポーツアリーナで開かれた第83回全日本大学総合卓球選手権大会で、部として35年ぶり5組目となる女子ダブルス優勝を果たした大学女子卓球部に対し、学園は12月20日に学園表彰を行いました。

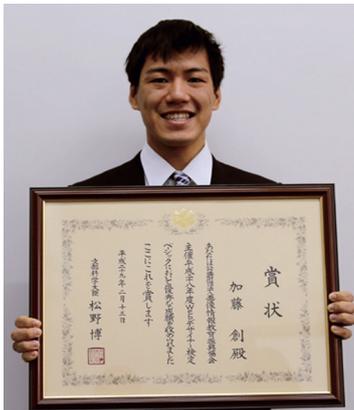
女子ダブルスで優勝したのは、楠川愛子選手（経営学科3年）・石田葵選手（同1年）のペア。ノーシードから出場し、全84組の頂点に立ちました。3回戦から準決勝までは専修、早稲田、同志社、中央各大学の強豪を相手に、いずれもゲームカウント3-2の大接戦を制して勝ち上がりました。

表彰式は八草キャンパス本部棟で行われ、大元司監督、鬼頭明顧問と楠川・石田両選手に後藤泰之理事長から表彰状などが手渡されたほか、クラブ活動後援会からも激励が贈られました。後藤理事長は「次はプレッシャーに打ち勝って優勝を目指してください」と期待を込めて挨拶し、大元監督が「これを機会に卓球部女子として全員が頑張っていきます」と今後の活躍を誓いました。



後藤淳学園長・総長、後藤泰之理事長を囲んで卓球部の選手ら

Webデザイナー検定ベシックで文部科学大臣賞



文部科学大臣賞の加藤創さん

画像情報教育振興協会主催の「二〇一六年度前期Webデザイナー検定ベシック」で、専門学校情報工学科DTP・Webデザインコース二年の加藤創さんが文部科学大臣賞個人賞

を受賞しました。

同検定はウェブサイトの企画・制作・デザインに関する基礎知識の理解を測るもので、成績優秀者に授与される文部科学大臣賞を本校の学生が受賞するのは、制度が始まった〇八年度に続いて二人目となります。

喜びの加藤さんは「勉強の成果が検定試験の合格だけでなく、立派な賞にまでつながってとてもうれしいです」と話しています。

専門学校から大学への編入学予定者を激励

専門学校から今春、大学に編入学を予定している学生たちが、稲垣慎二校長の激励を受けました。

編入学予定者は三月七日現在で九人おり、このうち愛知工業大学に四人が入ります。編入学先は情報科学部コンピュータシステム専攻が二人、経営学部経営情報システム専攻と工学部電子情報工学専攻が各一人となっています。



激励される編入学予定者たち

「専門学校と大学に役割の違いはあっても、社会に貢献するという立場では同じ。困ったことがあれば近況報告を兼ねて相談しにいらつしやい」と、親身に話しかけました。

名電高生が熊本応援プロジェクト

名電高校の有志たちが、昨年四月の震災から復興途上にある熊本を応援したいと「熊本応援プロジェクト」を立ち上げました。二月二十五、二十六日、名古屋・栄の久屋大通公園で開かれた観光イベント「ほつと@九州フェア」(JR東海、西日本、九州各社など主催)に参加し、熊本を実際に訪ねて分かった「いま、伝えたいこと」をステージで発表しました。



「ほつと@九州フェア」で発表する生徒たち

きっかけは、中高一貫コースの五年C組が昨年六月の学校祭で制作した「くまモン」の大きなモザイク画。被災した方々を元気づけたいと、三十万七千二百枚の細かな紙片を全員で貼り付けた縦二・四メートル、横三・二メートルの力作です。制作の中心にいた尾崎陸斗君が、熊本県庁にメールで寄贈を申し出たところ快諾され、被害が大きい熊本県益城町へ夏休みを利用してモザイク画を届けに行き、そこで多くの方の共感をいただいたことからプロジェクトはスタートしました。プロジェクトの趣旨は、

自分たちの目と耳で熊本の現状を知り、それを名古屋の多くの人たちに伝えることです。尾崎君のほか、クラスメートを中心に大石光輝君、河田拓巳君、小堀友暉君、徳丸星奈さん、山本隼也君、大石康喜君、丹羽亮斗君の有志八人が集い、一月二十一日から二泊三日で熊本を訪問しました。足を運んだ先は、仮設住宅や、震災時に避難した人らに開放されたホテル、子供たちの笑顔を取り戻した動物園、ボランティアの力を借りて復興に励む農園、被災した飲食店・商店が入居する屋台村、熊本城など

です。外国人や学生を含む多くの住民と出会って話を聞くうち、八人は「復興に向けて頑張る人たちの笑顔の中に熊本の今がある」と考え、三日間の体験を「熊本の『いま』新聞」と題したB4サイズ・四ページの新聞にまとめました。「ほつと@九州フェア」では、多くの人が集まるメインステージと、説明パネルやモニターが設置されたサブステージで、各日一回ずつ計四回の発表を行い、新聞も配布しました。イベントに合わせて里帰りしたモザイク画の前で、熊本での体験を堂々と報告した生徒たちは「震災の名残はありますが、熊本にはそれ以上に楽しいことがいっぱいあります」「熊本と一緒に悲しむのではなく、ぜひ行って楽しんでください」と来場客に呼び掛けました。プロジェクトを締めくくる発表を終え、尾崎君らは「モザイク画を作っているときは、こうなるとは思いませんでした。熊本の良さを名古屋の人に知ってもらおうと手伝いぐらいいましたのでは」と笑顔で振り返っていました。

松山・木造・今井選手が大村愛知県知事を表敬訪問

名電高校卓球部の松山祐季(三年)・木造勇人(二年)両選手が世界ジュニア選手権で日本男子団体として金メダルに輝き、同校バドミントン部の今井大湧選手(三年)もパラバドミントンアジア選手権で男子シングルス銀メダルを獲得しました。三選手は一月十三日、大村秀章・愛知県知事に大会の報告をしました。

昨年十一月に南アフリカ・ケープタウンで開かれた卓球の世界ジュニア選手権では、日本は決勝で韓国



大村秀章愛知県知事を表敬訪問した松山・木造・今井各選手ら

と対戦。一番に起用された木造選手が3-1で、三番の松山選手も3-0で相手を下すなどストレートの三連勝を収め、日本男子団体として十一大会ぶりとなる金メダルを獲得しました。松山選手は早田ひな選手と組んだ混合ダブルスでも銀メダルを獲得しました。

今井選手は昨年十一月に北京で開かれたパラバドミントンアジア選手権に出場し、上肢障がい男子シングルスで準優勝、正垣源選手と組んだ上肢障がい男子ダブルスでもベスト8入りました。

三人は、松山選手が春日井市、木造選手が一宮市、今井選手が津島市といずれも愛知県出身で、昨年から東京オリンピック・パラリンピック強化指定選手(ジュニア)として県の支援を受けています。

知事への報告では、後藤泰之理事長が県の支援に対するお礼を述べ、松山選手が「今までにない緊張感や不安の中で優勝することができ、大きな経験になりました。これからもジュニア

の成績に満足せずに頑張つていきます」、今井選手が「これからはたくさん国際大会を経験し、二〇二〇年の東京パラリンピックにつなげていきたいと思いません」と決意を述べました。大村知事からは「海外遠征のプレッシャーを乗り越えての素晴らしい結果。これを糧に東京オリンピック・パラリンピック、二〇二六年愛知県・名古屋で開催のアジア大会に向けて研鑽をつんでください」とお祝いの言葉が贈られました。

競技スキー部・四方選手 W杯自己最高の八位に

大学競技スキー部の四方元幾選手(経営学科四年)が二月十八、十九日に開かれたフリースタイルスキーW杯・秋田たざわ湖大会で八位に入賞、W杯参加二十四戦目で初の一桁順位となりました。五位通過した予選のエアでは全選手中トップを記録しました。



W杯8位入賞した四方元幾選手

大学野球部に平井光親・新監督が就任



部員たちを指導する平井光親新監督

勝を飾ったチーム黄金時代の一員です。1部優勝十七回を数える本学野球部は九九年秋を最後に優勝から遠ざかり、二〇一一年秋から2部に甘んじています。チームの再建を託された平井新監督は「勝つ喜びを教えたい」と早期の1部復帰を目指しています。

元経営学科准教授 小橋勉先生が逝去

かねてより闘病中だった元経営学部経営学科准教授の小橋勉先生が昨年十二月二十七日に逝去しました。四十三歳でした。小橋先生は平成十五年四月に本学に採用され、経営学科准教授、経営情報科学科准教授、地域防災研究センター准教授などを務めました。二十八年三月に退職後は同志社大学大学院ビジネス研究科准教授として活躍していました。

平井新監督は在学時に1部で五回優勝を経験し、首位打者一回・最優秀選手一回・ベストナイン五回をそれぞれ受賞、明治神宮大会で八五年準優勝、八六年優

告別式は十二月二十八日に愛知県一宮市内で営まれ、経営学部教職員ほか学園関係者や名古屋大学などの関係者、元ゼミ生ら多数が参列しました。